

No.2 「平和と幸せ」



2月24日、ロシアがウクライナに侵攻してから2ヶ月が過ぎました。物や家が壊れ、子どもを含めたくさんの人々が、苦しみ悲しんでいる姿が、毎日ニュースに流れ胸が苦しくなります。

今回は、「平和」や「幸せ」について書いてみました。

私の母方の祖父母は戦争体験者でした。沖縄戦で亡くなったそうです。幼い頃から何度か沖縄に遊びに行っていました。20年前、私が24歳の時、祖母から話を聞きました。軽貨物と呼ばれる個人タクシーと一緒に乗り「平和祈念公園」と「ひめゆりの塔」へ行きました。「ここでたくさん人がしんだのよ」「戦争はだめよ、なんにもいいことはない」と話してくれたのを覚えています。祖母は、とても陽気で、よくしゃべる花の好きな人でした。ベランダいっぱい咲く花に、背中を丸めて「きれいでしょ」とジョウロで水をあげる姿がとてもかわいらしく大好きでした。祖母や体験者の方たちの

悲しみはどれだけだったか。現在の私たちの暮らしは、辛く悲しいという気持ちから立ちあがろうとするたくさんの人の思いが繋がり、お互い助け合いながら築いてきたのだと思います。私も、誰もが花を愛でる世界に、地球の未来のために、出来ることをやっつけていこうと思います。

さて、皆さんは、どんな時に「幸せ」を感じますか。私の幸せだなと感じる瞬間の一つは、休日、冷蔵庫の中を確認するところから始まります。どんな食材が残っているのか見て、めちゃくちゃ美味しい夕飯を妄想。買い足す食材をメモして、スーパーに走ります。買い物カゴをカートに乗せて、野菜に魚肉、乳製品にお酒コーナーを回り、この時点で楽しみしかありません。帰宅後は、キッチンに立ち、好きな曲をながし、「お先にいただきます」のあいさつと同時に、プシュッと開けた缶ビールを片手に、お料理。この瞬間が最高です。味見やつまみ食いでお腹は満たされ、子どもたちの「美味いっ！」が耳に届いた時、私は「ああ、幸せだなあ」と感じます。

このお便りが、皆さんの「平和」や「幸せ」について考え、心豊かな時間となるきっかけになれば幸いです。

令和4年5月9日 山本敏彦